



# 学校だより

(6月号) 令和6年5月31日発行

<https://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校
    - ・すすんで勉強する子
    - ・自分からあいさつのできる子
    - ・仲よくたすけあう子
    - ・じょうぶな子
- 《今月の生活目標》 友だちの輪を広げよう

## 仲よくたすけあう子 ～いじめのない学校を目指して～

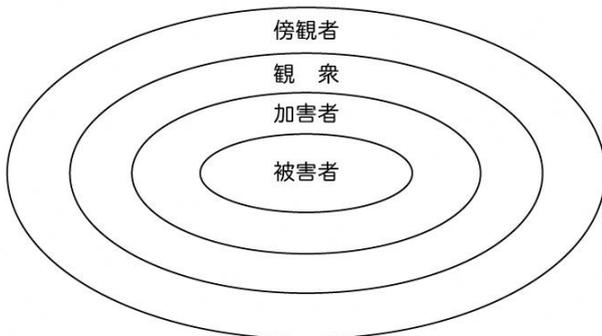
校長 岡田 健彦

子どもたちは、晴天の中、全校徒歩遠足に行きました。秋ヶ瀬公園までは、楽しい活動への期待感から足取り軽く、予定より早く到着しました。木々に囲まれた一面緑の広場で各学級に分かれて元気いっぱいレクを楽しみました。様子を見てみると、鬼ごっこをしているときに転んでしまった子をやさしく助けてあげたり、クリーン活動をしているときに仲間と力を合わせてゴミ拾いをしたり、それらの姿は、まさに本校の目指す児童像のひとつ「仲よくたすけあう子」そのものでした。

さて、今月は、いじめ撲滅強化月間です。本校といたしましても、いじめの未然防止に努め、いじめを許さない集団づくり、いじめが起きない学校づくりに力を注いでまいります。

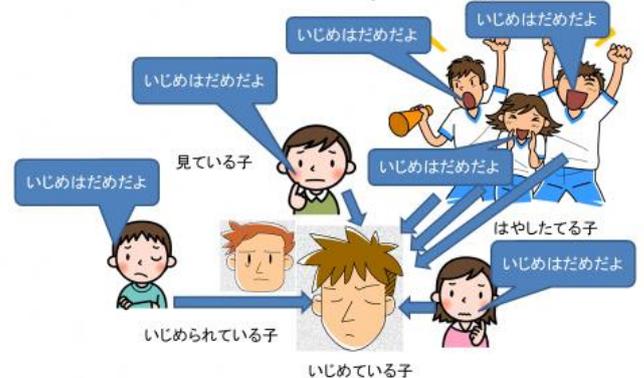
いじめは、基礎的な枠組として、「いじめっ子」「いじめられっ子」「観衆(周りではやし立てる者)」「傍観者(見て見ぬふりする者)」が関わっているとされています。(引用森田洋司「いじめの四層構造論」)これは、一人の児童が「いじめはだめだよ」といじている子に声をかけても、いじめを解消することはなかなか困難で、いじめにかかわった子全員が、いじめは、相手の人間性とその尊厳を踏みにじる「人権侵害行為」であることを認識し、いじめは許されないことであるということを理解しないと防げないという構造的な仕組がわかります。

いじめ集団の四層構造モデル



出典:『いじめとは何か』森田洋司著

いじめにかかわった子



本校といたしましても、「ストップいじめ!」啓発用ポスターを貼り、各学級でいじめ撲滅について話し合い、スローガンを決めて掲示することで、いじめの防止に向けた温かな雰囲気づくりに取り組んでまいります。また、児童会では、いじめ防止を目指したキャンペーンを展開し、いじめのない明るい学校を子どもたち自身の力でつくる取組を進めてまいります。

本校の学校ウェブページには、いじめ防止基本方針を掲載しています。その規定の通り、いじめ対策委員会を実施しています。月に一度の生徒指導委員会では、いじめ被害が疑われる案件について、組織的に協議し、迅速な対応を行っています。また、学校運営協議会に合わせ、年に2回の定例会では、地域の代表者や学識経験者からの御意見を協議の中でいただきながら対策を行っています。

いじめの衝動を発生させる原因は、①心理的ストレス②集団内の異質な者への嫌悪感情③ねたみや嫉妬感情④遊び感覚やふざけ意識⑤金銭などを得たいという意識⑥被害者となることへの回避感情などが挙げられます。いじめの加害者は、無自覚である場合が多いです。子どもたちを守る大人である教職員や保護者、地域の方々は、一人ひとりの子どもの丁寧な内面理解に基づく働きかけが必要となります。ぜひ、身近なお子様とこれを機にいじめについて話し合ってください、引き続き「仲よくたすけあう子」の実現に共通認識の下で取り組んでまいりたいと考えますので、どうぞよろしく願いいたします。